

**本園の教育
目標**

幼稚園に係るすべての人が成長と喜びを感じることの出来る幼稚園にすることを目標としている。豊かな自然の中での幼児の遊びを通しての教育を目標としている。幼児が自分で考え選択し行動できる教育を目標としている。

本年度の重点的に取り組む目標

- ① 本園の教育目標「共生」を基にした保育計画に基いた保育を実施する。
- ② コロナウイルス感染症予防の実施。
- ③ 自園給食を通して食育に取り組む。
- ④ 自然保育について

評価項目

取組状況と結果

本園の教育目標を取り入れた保育計画を立てて保育を行うことができたか。

今年も職員の保育の変化を感じた一年であった。いい方向で変わってきていると考えている。年長のしらぎくフェスタ、感覚遊び、楽器遊びなど今までにない保育を考えて行うことが出来た。このままいい形で変化し続けることが出来ればよいと考えている。

A
B
C
D

コロナウイルス感染予防の実施。

新しい変種も出てきて、幼児の感染もすごく増え、預かり保育でクラスターが発生した。また学級閉鎖のクラスも複数出てきた。基本的な感染対策は行っているが、様々なルートで感染が広がる可能性があり、注意はしてきたが、クラスターが発生したのは残念であった。今後国のコロナの取り扱いが変わり、正常な保育が出来るように願っている。

A
B
C
D

自園給食、食育に対する取り組みについて。

田植えの前の苗作りから始まり稲刈りや脱穀まで子どもたちで行うことが出来た。子どもたちもお米がどうやって出来るのか実感を持って学び、味わうことが出来た。園内の畑ではサツマイモ以外にも落花生を植え、収穫してから塩ゆでして味わう事が出来、食育につながったと思う。サツマイモに限らず他の作物も選択肢に考えていきたい。

A
B
C
D

自然保育について。

ムッレ教室は、最後の葉緑素の話まで行えて、子どもなりに自然の循環に気付くことが出来たのではないかと思う。上西郷川に川遊びに行くのは今年は年中、年長とも年2回行くことが出来た。また、秋の七草を園内の色んな所に植えて、どこに何があるかを探するという活動も出来た。園内でも自然環境を豊かにしていきたいと思う。

A
B
C
D

本園の総合的な評価結果と今後の課題

重点的に取り組む評価項目については職員会議などを通してそれぞれ自己点検・自己評価を行なった。

● 今年度は上西郷川に川遊びに行くという事を年中、年長で行った。経験を重ねる事で園外の自然にも親しんでほしい。森のムッレ教室もプログラムの最後の葉緑素の話まで出来た事で子どもたちの理解も深まったと考えている。

●園内の環境が変わったせいか、子どもたちの遊びが長続きするようになってきた。2, 3日かけてみんなで砂場で山を作って色々変化させていくという事が年少でも出来るようになってきた。遊びに夢中になる、遊びこむという事は楽しいいう充実感を感じるだけでなく、創造性や社会性、自発性といった沢山の能力の源になると思う。心理学でいうフロー効果に繋がると思うような遊びを沢山見ることが出来た。

●来年度にむけて運動場の隅やどろんこ広場にも木を植えたり高低差を作った。実がなるには何年かかかるかもしれないが今後の園内の環境を楽しみにしたい。その他にも園内の自然環境を色々と整えてそれぞれの季節に多くの自然に触れる事が出来るようにしていきたい。子どもの頃の自然体験が将来の社会が持続可能な社会になるように考える際に必要だと思う。

● 年長は7月に今年はしらぎくフェスタを行った。今まで2年間夏祭りであったが今年は内容も少し変わり、子どもたちの話し合いやアイデアを元に行ったことは子ども達の主体性や意欲、人間関係能力等を引き出す保育になったと思う。また、年中では自然の音を聴く事から楽器遊び音楽遊びと発展することが出来て良かったと思う。年少や満三歳児では感覚遊びを多く取り入れ五感を刺激して色々な感触を味わう事ができた。年少でも子どもたちの話し合いから何をするか決めて行うような保育が出来るようになってきたし、さくら・さくらんぼリズムも子どもたちの体づくりに必要な新しい活動が取り入れることが出来た。子ども主体の保育が年間を通じて全ての学年で出来るようになってきていると思う。今後さらに保育の質を向上させていきたいと思う。

● 職員の採用が非常に厳しくなっているのを痛感した年であった。今後も少子化で学生の数は減っていき、保育の仕事を目指す学生も減っていくだろう。また、都市部での就職を希望する学生が増え、福津市のような地方都市ではいい人材を確保するのが一層難しくなる事が予想される。今いる職員が子育てしながら仕事出来る体制を整えていかなければと思うが、子育て中のこの園の職員に聞いてもクラス担任という無理だと返事する職員ばかりであった。業務内容の見直しのほか、他の職員のサポートの体制など、来年度は全体で仕事をしながら、どのような形なら正規職員に復帰できるのか考えていきたい。

今年度は以上の通り自己評価します。

しらぎく幼稚園

園長 塩川陽一